

よつて漸次壓倒されつゝある。人口四萬に近い。
アルバニ (Albany)。南アフリカのケープ州
の東南部にある地方。チャールス・サマセット
卿 (Lord Charles Somerset) の政治の間に一八
二〇年アルゴア・ベイ (Algoa Bay) に上陸した
三、五〇〇人の移民によつて初めて殖民された。
この移民は英國政府によつて援助された最初の
大團體移民であつてカフィール (Kaffir) 族の侵襲
に反抗する防壘となつた。面積一、六四五平方
哩。首府はグラレアムスタウン (Grahamstown) で
ある。全人口二萬四千。

新著紹介

○力學史傳 福本正人著 恒星社發行 定價二圓五十錢

今回福本學士によつて力學史が編纂されたことは誠に慶ば
しい事であつて、この種の書籍の出現は吾々の久しく待望し
て止まなかつたものである。著者は若き頃哲學に志し後轉じ
て力學を専攻されし人であり且つ本著述に参考とされた力學
書類は何れも古今の一大權威書であること等より、著述の當
初尋常ならざる用意の拂はれたことを見逃してはならぬ。之

れ亦本書の優れた特色であらねばならぬ。著者は京大宇宙物
理學教室に職を奉ずる新進の學徒である。本書は西曆紀元前
數百年の昔のツエーノンに筆を起し現代のプランク、アイン
スタインに至る迄二千數百年間五十有七人の碩學に關する力
學史傳を一人に一章をあて、詳細に編算したものである (但
し今日の新量子論には筆を染めてゐない)。西曆紀元前此の
かた人智に芽生へた力學 (熱力學及電氣力學等を含む廣い意味
での) 思想が如何様な試練と變遷を受けつゝ、又如何なる人
間的な背景に色どられつゝ、一步又一步遂に今日の力學體系に
まで建設さるゝに至つたかと云ふ力學發展の赤裸々の姿をよ
く説述したのであり、猶各學者の生ひ立ちの記とその人間
としての半面を窺ひ得る記事もあつて、燈火の下で靜かに熟
讀するには好適の書物である。目次の欄には各學者の生涯に
於ける主な業績やその他の事項が便利にまとめられてあつて
力學史の概念的内容を一目の中に收め得る。又力學史傳には
誠に相應はしき多數の版畫や寫眞版が入れられてあつて讀者
を恍惚の境地に導く。就中ピサの寺院内で燈明の振動を凝視
せる若き日のガレイの姿等は正に青年學徒の研究心を燃焼
せずには置かぬであらふ。

今日物理學の最先端を開拓しつゝある新しい武器は相對性
理論とエネルギー量子の考へとであつて、將來の問題はこの
兩者の融合統一にあるべしとは一般の眺むる所の如くである
が、更に今より數世紀後に、或はツエーノンの昔よりアイン

スタインの今日に至る迄の時間の間隔を持つ將來に出版さるゝ力學史の終りの數十頁に如何なる事件が記載さるゝであらふかは、本書を読み終えた者の胸裏に極印される大きな宿題であるが、之れは全く夢想だに出来ぬ所である。然し乍ら之れとても今日の力學思想の有する効用性に制限が加へられつゝ、然もその基礎の上に將來の新力學が建設さるゝものであつて、古いものを全く含まない新しいものは決して出現しないものであることは之の力學史傳の教へんとする最も大きな教訓の一つであらふ。(熊谷)

○地理學論叢第二輯

京都帝國大學地理學教室編
古今書院發行 定價一圓八十錢

菊版一九〇頁、第一輯とちがつてクロスの立派な表装で見たと同様の美はしい、内容は朝井氏千代川下流の砂丘、織田氏等時源線圖の概念、別枝氏濃尾平野の人口密度、松井氏經濟地理序説、三友氏北九州の海岸線、村松氏礪波平野の村落、米倉氏律令時代の村落の七編である。新進のこの方面に於ける業績としてみるべきもの、多い論叢である。(藤田)

○大塚地理學會論文集第二輯(上)

古今書院發行
定價二圓八十錢

これも前書と同じく東京文理科大學地理學教室の報告であるが、菊版四〇三頁、全く體裁を同じくする美本である。内容は幸田氏石川縣の絹業、河野氏の四國の太平洋岸漁港、蛭田氏佐久平の用水、三野氏の畷川下流の浸蝕面、吉村氏の湖

沼様式、青野氏の外房沿岸漁村、安達氏の會津盆地、井上氏の富士川下流の地形、岩田氏の越後平野の河川境界、傳士俊氏遼東半島南部の漢民、磯崎氏の地方都市商圏、田中氏の上越國境南部地域性の對比十二編を収めてある。目下の地理の學徒がどうした問題を取扱ふかを知るに便宜があると信じて。(藤田)

○地球物理學

寺田寅彦・坪井忠二共著
定價八拾錢

本書も岩波全書の一冊である。嘗て好評を博し久しく絶版なりし寺田博士の舊著を基礎として新進坪井助教授の協力によりて成りしもの。夙に定評のある名文なる上にエピソードなども挿入してあり、極めて樂に此の難解の學問の概要を知る事が出来る。地球の形狀と大き及び内部構造の二篇から成り、地震や地電磁氣の説明がないのでやゝ淋しい。本文一九八頁、外に索引がある、手軽で權威あるゲツシエン叢書その他を我等は日頃より羨んでゐたが、レクラムに模した文庫に成功した岩波書店が此の方面に着手した事を感謝する。然しその百七十に達する書目を見て地學關係のもの、の不當に少いの驚いて了ふ。これは發行者の認識にも無論責が有るに相違ないが、本邦地學界の發達にも關係がないとは言へぬであらう。地學愛好者として苦言を洩らしたくもなり非常な寂寥が感ぜられる。(尾山生)